論文

中国人大学生の言語態度

宮　本　大　輔
MIYAMOTO Daisuke

はじめに

本稿は，中国人の言語態度に関するものであり，北京，天津，上海，杭州の大学生 528 人を対象とした調査にもとづいている．

本稿の内容は大きく 2 つに分けることができる．つまり，言語使用意識と言語評価の 2 つである．本稿で扱っている言語使用意識（Language Consciousness）及び言語評価（Language Evaluation）は言語態度に属する内容であり，社会言語学における重要な研究テーマの 1 つである．言語態度（Language Attitude）とは，言語に関連して生み出されるあらゆる感情や信念のことをさし，言語評価は言語態度における価値的評価に関わる感情・感覚をさす．真田等（2000：pp. 107-110）によれば，言語態度には以下のいくつかの内容が含まれる．

（1）言語・言語行動についての評価・感覚
（2）言語・言語行動についての信念・期待
（3）言語・言語行動についての規範
（4）言語使用・言語行動についての現状認識
（5）言語使用・言語行動についての志向意識

本研究で扱う言語評価は上記の（1）「言語・言語行動についての評価・感覚」に含まれる内容であり，主に日常生活におけるある言語形式，言語体系及び言語行動に対して持つある種の評価的性質を持つ態度のことである．また，言語使用意識は（4）「言語使用・言語行動についての現状認識」に含まれる内容である．

目的は，（1）インフォーマントの言語使用状況を比較することによって，各調査地点の大学生が日常生活の様々な場面において標準中国語と方言をどのように切り替えているのかを探る，（2）インフォーマントの標準中国語[(1)]と母方言に対するイメージを明らかにする，（3）言語使用意識と言語評価に何らかの相関があるのかを探るという 3 つである．

では，議論に先立ち，先行研究から見ていきたい．

Ⅰ　先行研究

まず，標準中国語と方言の言語使用意識を扱った主だった研究として次の２点をあげることができる．

汪（2003）は蘇州において，小学２年生～高校２年生（8～18歳）110名を対象とした場面別言語使用状況に関するアンケート調査を実施した．この調査では，①家，②授業中，③授業後，④校外などといった場面が設定されており，上記の場面①は，祖父母・父母に対して，場面②，③，④は，それぞれ先生・同級生に対してと更に細かく分けられている．結果については表１をご覧いただきたい．

表１　蘇州人の言語使用状況

場面①　家　庭			
祖父母に対して		父母に対して	
普通話	蘇州語	普通話	蘇州語
17%	67%	29%	56%
場面②　授業中			
先生に対して		同級生に対して	
普通話	蘇州語	普通話	蘇州語
97%	1%	—	—
場面③　授業後			
先生に対して		同級生に対して	
普通話	蘇州語	普通話	蘇州語
81%	5%	62%	15%

陳（1990）は中国浙江省紹興市において，標準中国語の社会分布とその発展傾向を探ることを目的としたアンケート及び現地インタビュー調査を実施した．調査対象は，教育機関の教員・学生，一部の党幹部，工場労働者，病院・郵便局・銀行の職員及びホテルや商店の管理者・職員，そして露店商など400余名である．最終的に得た254部の有効回答から，紹興市における標準中国語の発展傾向を分析し，その発展プロセスを以下のように図式化している．

A（紹興方言モノリンガル）→B（消極型バイリンガル）→C（適応型バイリンガル）→D（積極型バイリンガル）→E（標準中国語モノリンガル）[(2)]

次に，標準中国語や方言に対する言語評価を扱った主だった研究として，次のいくつかの研究をあげることができる．

陳（1999）は言語態度を情的なものと知的なものの２つに分類し，さらに個人的なものと社会的なものの２つに分類した．また，シンガポールにおいて華人を対象に，言語評価調査を実施し，二言語あるいは三言語話者の英語，標準中国語及び中国方言に対する言語評価について分析している．

また，高・蘇・周（1998）は，香港，北京及び広州の大学生を対象に，言語評価調査を実施した．12組の評価項目を設定し，広東語，英語，標準中国語，広東訛りの標準中国語それぞれの話者に，

同じ文章を朗読させるという調査方法を用いた．この調査結果にもとづいて，高・蘇・周（1998）は次のように結論づけている．(1) 香港のインフォーマントの標準中国語に対する評価は全体的に大陸のインフォーマントのものと類似しており，特に標準中国語が持つ社会的地位に関しては肯定的である．(2) 香港のインフォーマントの英語に対する評価は大陸より低く，広東訛りの標準中国語に対する評価は大陸より高い．(3) 返還前の香港の大学生は，英語に対しては否定的な態度，標準中国語に対しては肯定的な態度，そして母方言である広東語に対しては高い言語忠誠心（Language Loyalty）を持っている．

そして，倪・王・王・姜（2004）は上海交通大学国際教育学院の 427 名の留学生を対象に，言語評価調査を実施した．そして，中国語（標準中国語）に対する言語評価及び中国語レベルが言語評価に及ぼす影響について分析した．その調査結果によれば，外国人留学生の言語態度には，情感因子，地位因子，適用因子の 3 因子が含まれる．また，この調査のインフォーマントに関していえば，その職業や背景，中国語レベルは，彼らの中国語に対する言語意識には影響を及ぼしていないとも結論づけている．

また，宮本（2009c）は出身地の異なる 4 地点 601 名のインフォーマントを対象として実施した言語評価調査にもとづいて，中国人大学生の標準中国語及び地方方言に対する評価及びイメージについて分析している．この調査結果によれば，以下の傾向が見られた．(1) 上海インフォーマントが有する上海語のイメージと他の地域のインフォーマントがイメージする上海語との間には，明らかな差が存在している．宮本（2009c）の調査結果では，浙江→天津→北京と上海から離れるにつれて，上海語に対するイメージは低下している．(2) 言語評価にはその言語が母語として話される地域の経済的地位ばかりではなく，その言語が有する文化的背景や歴史的背景，アイデンティティのような心理的要因，更には国や省或いは市の行政が公布する言語政策が密接に関わっているように考察できる．また，各調査地における標準中国語の高い評価には，中華人民共和国建国以後公布されている多くの標準中国語普及政策も貢献していると考えられる．(3) 因子分析によって，各評価項目間には「南方方言のイメージ」と「北方方言のイメージ」という 2 つの共通因子が存在することが明らかになった．北京，天津，上海，杭州のさらに詳細な研究例として，宮本（2007，2008a，2008b，2009a，2009b）がある．

そして，場面による言語の使用意識と言語評価の相関を扱った研究として，次の研究をあげることができる．

伊藤（1993）は，183 名のインフォーマントを対象として実施した「方言と標準語」に関する調査にもとづいて，大学生が話し手や場合に応じて，方言と標準語をどう使い分けているか，方言や標準語に対する評価がその使用意識とどう関わっているかについて分析している．伊藤（1993）の研究方法は，本稿で場面による言語の使用意識と言語評価の相関を考察する際，大いに参考とすることができた．

Ⅱ　調査概要

筆者は，以下の 4 地点において，言語態度調査を実施した．全調査概要は以下の通りである．

調査地点と場所：中華人民共和国北京市，天津市，上海市，杭州市

調査実施期間：2005 年 11 月 1 日―14 日（杭州市）

2006 年 9 月 5 日―24 日（上海市）

2006 年 10 月 10 日―24 日（北京及び天津市）

調査対象：北京聯合大学・首都師範大学　男性：87 名，女性：160 名

天津師範大学　男性：15 名，女性：75 名

上海師範大学・華東師範大学　男性：20 名，女性：141 名

浙江大学・浙江工商大学　男性：5 名，女性：25 名

年齢構成：17―30 歳

調査には，自由記述式及び選択式の調査票を配布・回収する留置法を用いた．調査対象言語は以下の通りである．まず中国の標準変種である標準中国語，十大方言から呉語，贛語，湘語，閩語，粤語，徽語の 6 つを設定した．そして西南官話としてその独自の言語的地位を確立していると思われる四川語，江南地域の人々に認識しやすい北方方言であると思われる山東語，そして半官話と呼ばれる杭州語[(3)]，上海語が台頭する以前は呉語の代表的下位方言であった蘇州語の 4 つを加えた．本稿では，上記のうち標準中国語と，各地インフォーマントの母方言である北京語，天津語，上海語，杭州語について詳述する．

選択式の部分については，上記の各調査対象言語に対して，(a) 上品である，(b) 親近感を覚える，(c) 柔らかである，(d) 豪快である，(e) 細やかである，(f) 実用的である，(g) 美しい，(h) かっこいい，(i) 好きである[(4)]といった言語を評価する上で比較的イメージしやすいと思われる 9 つの評価項目を設定した．そして，それぞれの項目に①～⑤の選択肢を用意し，SD 法にもとづいた 5 段階尺度で評定させた．

また，インフォーマントは全て各調査地点を出身地とする者に限定した．よって，4 地点のインフォーマントをそれぞれ北京インフォーマント，天津インフォーマント，上海インフォーマント，杭州インフォーマントと称する．

自由記述式の部分は，①「家で」，②「ショッピング」，③「学校で同級生に対して」，④「校外で同級生に対して」，⑤「友だちとお喋り」，⑥「授業中先生に対して」，⑦「放課後先生に対して」という 7 つの場面を設定した．自由記述式部分は，①～⑦まで設定した各場面において，標準中国語と母方言どちらを使用するかを回答させることによって，北京の大学生がどのように言語シフトを行っているかを探ることを狙いとしている．

Ⅲ　結果と考察

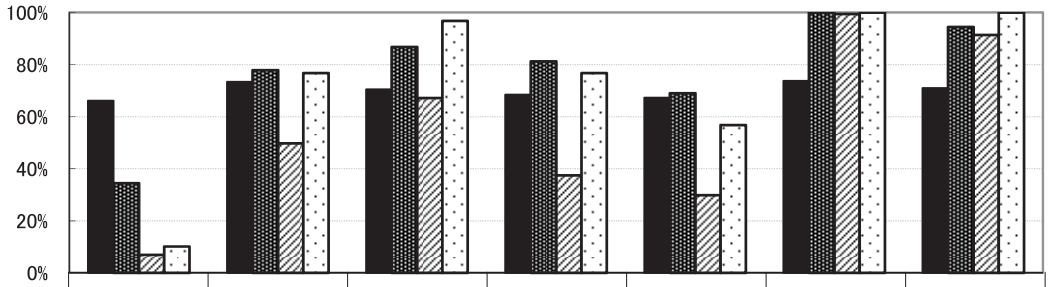
(1)　言語使用意識について

本節では各地のインフォーマントが標準中国語と母方言とを場面によってどのように使い分けているのかを見てみたい．図 1 は場面による標準中国語の使用率をグラフ化したものである．また，図 2 は場面による母方言の使用率をグラフ化したものである．

場面ごとの議論に先がけて，図 1，図 2 から読み取れる全体像を見ておきたい．

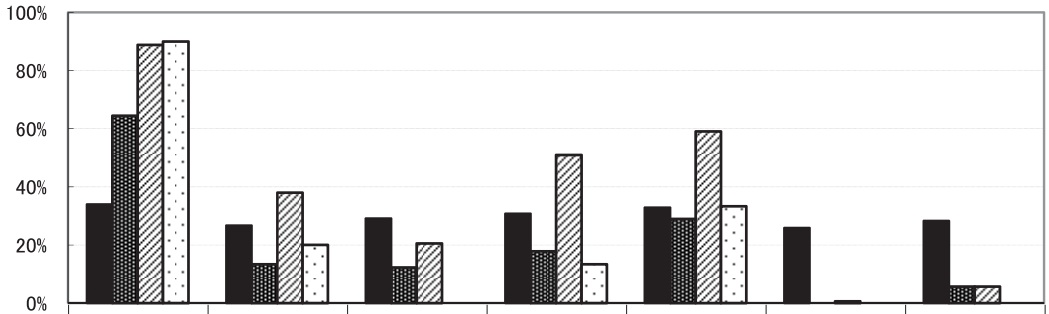
まず，言語を使用する場面を考慮せず，各調査地点出身者の標準中国語平均使用率を高い順に並べると，天津 77.6%，杭州 73.8%，北京 70.0%，上海 54.5% となる．最も高い天津インフォーマントの標準中国語の平均使用率と最も低い上海インフォーマントのものとを比較すると，その差は 23.1% となる．同じく母方言の平均使用率を高い順に並べると，上海 37.6%，北京 29.7%，杭州 22.4%，天津 20.3% となる．最も高い上海インフォーマントの母方言平均使用率と最も低い天津インフォーマントのものを比較すると，その差は 17.3% となる．つまり，本研究の調査対象である 4 地点の大学生の中では，特に上海インフォーマントの母方言平均使用率が高くなっていることが分かる．このことから，上海インフォーマントは母方言である上海語に対して強い言語忠誠心を持っているといえるのではないだろうか．

次に，調査地点を考慮せず，各設定場面における標準中国語平均使用率を高い順に並べると，場面 6 93.3%，場面 7 89.2%，場面 3 80.2%，場面 2 69.4%，場面 4 65.9%，場面 5 55.7%，場面 1 29.3% となる．各調査地点における標準中国語の使用状況を平均使用率と比較することによって，その地域の場面による標準中国語へのシフト状況を垣間見ることができる．つまり，平均値を上回っている場面



	場面 1 家で	場面 2 ショッピング	場面 3 学校で同級生に対して	場面 4 校外で同級生に対して	場面 5 友だちとお喋り	場面 6 授業中先生に対して	場面 7 放課後先生に対して
■ 北京	66.0%	73.3%	70.4%	68.4%	67.2%	73.7%	70.9%
■ 天津	34.4%	77.8%	86.7%	81.1%	68.9%	100%	94.4%
□ 上海	6.8%	49.7%	67.1%	37.3%	29.8%	99.4%	91.3%
□ 杭州	10.0%	76.7%	96.7%	76.7%	56.7%	100%	100%

図 1　標準中国語の使用率



	場面 1 家で	場面 2 ショッピング	場面 3 学校で同級生に対して	場面 4 校外で同級生に対して	場面 5 友だちとお喋り	場面 6 授業中先生に対して	場面 7 放課後先生に対して
■ 北京	34.0%	26.7%	29.1%	30.8%	32.8%	25.9%	28.3%
■ 天津	64.4%	13.3%	12.2%	17.8%	28.9%	0.0%	5.6%
□ 上海	88.8%	37.9%	20.5%	50.9%	59.0%	0.6%	5.6%
□ 杭州	90.0%	20.0%	0.0%	13.3%	33.3%	0%	0%

図 2　母方言の使用率

ではより標準中国語へシフトする頻度が高く，その場面における標準中国語の浸透度が高いと言えるのではないだろうか.

また，同じく各設定場面における母方言平均使用率を高い順に並べると，場面 1　69.3%，場面 5 38.5%，場面 4 28.2%，場面 2 24.5%，場面 3 15.5%，場面 7 9.9%，場面 6 6.6% となっている．各調査地点における母方言の使用状況を平均使用率と比較することによって，その地域の場面による母方言へのシフト状況を見ることができるだろう.

最後に，4 地点における全体的な標準中国語及び母方言の使用状況を見ると，杭州インフォーマントの標準中国語使用率が母方言使用率を上回るのは，場面 1「家で」と場面 5「友だちとお喋り」の間となっている．この結果は，場面 4「校外で同級生に対して」と場面 2「ショッピング」の間で標準中国語使用率が母方言使用率を上回る上海における調査結果とは大きく異なっており，むしろ北京や天津に見られるコード切換状況に近いと言えるのではないだろうか.

また，場面 3 及び場面 4 の間に見られる標準中国語及び母方言の使用率の差は，インフォーマントと「同級生」が会話する際に存在する心理的緊張度が，会話の場面がインフォーマルからフォーマルへと変化したことによって低下したためだとは考えられないだろうか.

また，場面 2，場面 3，場面 4 では，共に北京と上海という大都市では母方言使用率が高く，天津と杭州という中都市では母方言使用率が低いという傾向が見られる.

ここからは場面ごとに詳しく見ていきたい.

① 場面 1「家で」

家庭というインフォーマルな場面で，自分の家族と会話をするという状況である．つまり，設定した場面のうち，学生の心理的緊張度が最も低い場面だと推測できる．本場面において，北京・天津インフォーマントの標準中国語使用率は平均を上回り，上海・杭州インフォーマントの標準中国語使用率は平均値を大幅に下回っている．特にこの場面における北京インフォーマントの標準中国語使用率は 66% と，平均値を 36.7% 上回っている.

先ほども述べたように，この場面 1 では，インフォーマントの心理的緊張度は低下すると考えられる．心理的緊張度の低下，つまり心理的緊張からの開放により，インフォーマントが用いる言語形式は最もくだけたものになることが推測される．それにも関わらず，北京インフォーマントの標準語の使用率は平均値を大幅に上回っている．これは多くの北京インフォーマントの中での標準中国語の浸透率が非常に高いことを示しており，彼らの標準中国語の受容度が非常に高く，標準中国語の母方言化が正に進行しつつあるように見受けられる.

また，本場面における母方言の使用率は，上海・杭州インフォーマントの母方言使用率が平均値を上回っている．平均値との差はそれぞれ，北京 35.3% マイナス，天津 4.9% マイナス，上海 19.5% プラス，杭州 20.7% プラスとなっている．北京インフォーマントのデータに対し，最も数値の低い上海インフォーマントの標準中国語使用率は 6.8% となっており，平均値を 22.5% 下回っている．また，本場面における杭州インフォーマントの標準中国語使用率は 10% となっており，上海インフォーマントの数値と似た結果を示している.

② 場面２「ショッピング」

街で買い物をするという私的でインフォーマルな場面である．だが，会話の相手として想定されるのは見知らぬ販売員である．そのため意識的に，或いは無意識に心理的緊張度がわずかに高まる可能性がある．本場面では，北京・天津・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を上回り，上海インフォーマントの標準中国語使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ，北京 3.9% プラス，天津 8.4% プラス，上海 19.7% マイナス，杭州 7.3% プラスとなっている．他の３地点での標準中国語使用率が平均値を上回っていることを考えると，上海インフォーマントに見られる標準中国語使用率の低下は明らかなものである．その一方，場面２における北京・上海インフォーマントの母方言使用率は平均値を上回り，天津・杭州インフォーマントの母方言使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ北京 2.2% プラス，天津 11.2% マイナス，上海 13.4% プラス，杭州 4.5% マイナスとなっている．

③ 場面３「学校で同級生に対して」

学校というフォーマルな場面で，同級生と会話をするという状況である．本場面では，天津・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を上回り，北京・上海インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ，北京 9.8% マイナス，天津 6.5% プラス，上海 13.1% マイナス，杭州 16.5% プラスとなっている．その一方，場面３における北京・上海インフォーマントの母方言使用率は平均値を上回り，天津・杭州インフォーマントの母方言使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ北京 13.6% プラス，天津 3.3% マイナス，上海 5% プラス，杭州 15.5% マイナスとなっている．

④ 場面４「校外で同級生に対して」

会話の相手は場面３と同じく同級生である．場面３と異なるのは，設定した会話の場面が校外というインフォーマルな場面だということである．会話の相手が同級生であること，設定場面が郊外であるということから，インフォーマントの心理的緊張度は比較的低くなると考えるのが自然である．

本場面では，北京・天津・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を上回り，上海インフォーマントの標準中国語使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ，北京 2.5% プラス，天津 15.2% プラス，上海 28.6% マイナス，杭州 10.8% プラスとなっており，上海インフォーマントの本場面における標準中国語使用率の低下は明らかなものである．その一方，場面４における北京・上海インフォーマントの母方言使用率は平均値を上回り，天津・杭州インフォーマントの母方言使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ北京 2.6% プラス，天津 10.4% マイナス，上海 22.7% プラス，杭州 14.9% マイナスとなっている．

⑤ 場面５「友だちとお喋り」

具体的な会話の場所は設定していないが，友だちとお喋りをするという設定である．したがって，他の場面と比較するとインフォーマントの心理的緊張度は格段に低くなると考えてもいいだろう．

本場面では，北京・天津・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を上回り，上海イン

フォーマントの標準中国語使用率が平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ，北京 11.5% プラス，天津 13.2% プラス，上海 25.9% マイナス，杭州 1% プラスとなっており，上海インフォーマントの本場面における標準中国語使用率の低下は明らかである．

その一方，場面 5 における上海インフォーマントの母方言使用率は平均値を大幅に上回り，北京・天津インフォーマント及び杭州インフォーマントの母方言使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ北京 5.7% マイナス，天津 9.6% マイナス，上海 20.5% プラス，杭州 5.2% マイナスとなっており，上海インフォーマントの本場面における母方言使用率の上昇は非常に明らかである．

ただし，本調査では，「友だち」の出身地を限定していない．したがって，杭州市が中都市であること，調査を実施した大学が重点大学であることを考慮すると，杭州インフォーマントの「友だち」が必ずしも杭州インフォーマントと同じ方言集団に属しているとは限らない．もし，同じ方言集団に属する友人との会話であれば杭州でも方言使用率が高くなることが予想される．これについては，更なる検証が必要である．

⑥ 場面 6「授業中先生に対して」

授業中というフォーマルな場面で，自分よりも目上の相手である先生と話すという設定である．会話する相手が先生であること，設定場面が授業中であることから，インフォーマントの心理的緊張度は非常に強くなることが推測できる．

本場面では，天津・上海・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を上回り，北京インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を下回っている．天津・上海・杭州インフォーマントが，場面 6 では，標準中国語をより多く使用するとしている．平均値との差はそれぞれ，北京 19.6% マイナス，天津 6.7% プラス，上海 6.1% プラス，杭州 6.7% プラスとなっている．設定した 7 つの場面の内，インフォーマントの緊張度が最も高いフォーマルな場面である場面 6 において，他の 3 地点のインフォーマントの標準中国語使用率が共に平均値を 6.1% 以上，上回る中，北京インフォーマントの標準中国語使用率だけが平均値を大幅に下回っている．

その一方，場面 6 における北京インフォーマントの母方言使用率は平均値を上回り，天津・上海・杭州インフォーマントの母方言使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ北京 19.3% プラス，天津 6.6% マイナス，上海 6% マイナス，杭州 6.6% マイナスとなっており，北京インフォーマントの本場面における母方言使用率が他の地域に比べて大幅に上昇していることが分かる．

場面 6 で北京語を使用するとしたインフォーマントの大部分が他の場面でも北京語を使用すると回答している．このことから，1 つの可能性を示唆することができる．北京語と中国標準語は互いに通じ合う部分が多いことから，場面 6 で北京語を使用すると回答したインフォーマントは，この 2 つの言語を混同しているのではないだろうか．つまり，インフォーマントは大学生であるため，十分な社会的経験を持っておらず，母方言を使うべき場面と標準中国語を使うべき場面をはっきりと分けられていないということだ．この点については，今後，検証していく必要がある．

⑦ 場面 7「放課後先生に対して」

会話の相手は場面 6 と同じく先生である．場面 6 と異なるのは，設定した会話の場面が放課後，つ

まりインフォーマルな場面だということである．会話の相手は自分より目上の教師だが，会話の場面が放課後で授業から離れた状況であることを考慮すると，学生の心理的緊張度は，場面 6 よりも低くなることが推測できる．

本場面では，天津・上海・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が平均値を上回り，北京インフォーマントの標準中国語使用率は平均値を下回っている．天津・上海・杭州インフォーマントが，場面 7 において，標準中国語をより多く使用するとしている．平均値との差はそれぞれ，北京 18.3% マイナス，天津 5.2% プラス，上海 2.1% プラス，杭州 10.8% プラスとなっている．場面 6 に次いで，インフォーマントの緊張度が高まるフォーマルな場面である場面 7 において，天津・上海・杭州インフォーマントの標準中国語使用率が均しく平均値を上回る中，北京インフォーマントの標準中国語使用率だけは平均値を 18.3% も下回る結果となっている．

その一方，場面 7 における北京インフォーマントの母方言使用率は平均値を上回り，天津・上海・杭州インフォーマントの母方言使用率は平均値を下回っている．平均値との差はそれぞれ北京 18.4% プラス，天津 4.3% マイナス，上海 4.3% マイナス，杭州 9.9% マイナスとなっており，北京インフォーマントの本場面における母方言使用率は他の地域に比べて大幅に上昇していることが分かる．

(2) 標準中国語と方言に対する言語イメージ

本章では，各調査地点のインフォーマントによる標準中国語及び母方言に対する評価を抽出し比較することによって，彼らが自分たちの母方言をどのように位置づけているかを探っていきたい．

① 北京インフォーマントの評価

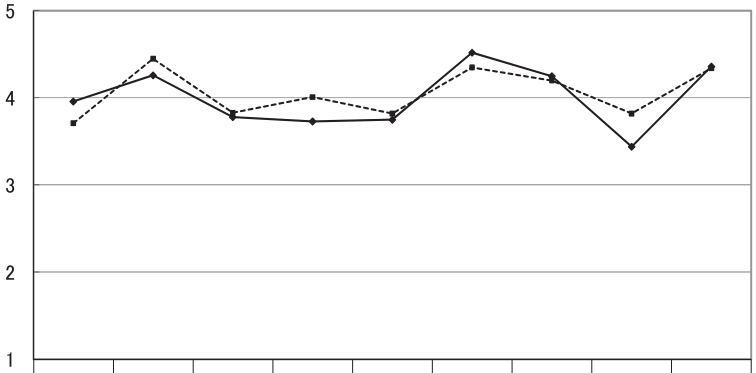
図 3 は北京インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価をグラフにしたものである．

まず，北京インフォーマントが標準中国語と北京語を混同している可能性を考慮して，標準中国語に対する評価と北京語に対する評価を比較してみると，多少ではあるが，いくつかの相違点が見られる．まず，標準中国語に対する評価では，「実用的である」が最も高いが，一方，北京語に対する評価では，「親近感を覚える」が最も高くなっている．これには，北京語を母方言とする北京インフォーマントの心理的要素が大きく関わっていると考えられる．次に，標準中国語に対する評価においては低かった「豪快である」が北京語に対する評価では比較的上位に位置している．

標準中国語は，中国において共通語としての役割を担っているため，その実用性が非常に高く評価されている．また，「好きである」及び「親近感を覚える」における評価の高さから，北京インフォーマントは自らの母方言である北京語と非常に密接な関係にある標準中国語に対して強い親近感を持っていることが読み取れる．また，標準中国語が持つ規範性が評価され，美しく，上品な言語であると位置づけられている．

北京語に対する評価は，「親近感を覚える」において最も高くなり，「上品である」において最も低くなっている．北京語は北京インフォーマントの母方言であるため，「親近感を覚える」が最も高く評価されているのは当然のことであり，北京インフォーマントの心理的要素の表れであると言えよう．「上品である」における評価の低下は，北京語に対する評価が，「豪快である」や「かっこいい」において標準中国語を上回っていることに起因するものと考えられる．

また，「実用的である」における評価を標準中国語に対するものと比較すると，その意味合いが異なるように思われる．標準中国語の実用性は，共通語としてのフォーマルな実用性である．それに対し，北京語の実用性は，北京語を母方言とする北京インフォーマントが日常生活の各場面で使用する言語としてのインフォーマルな実用的威信に裏打ちされたものだと言えよう．



	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
標準中国語	3.96	4.26	3.78	3.73	3.75	4.52	4.25	3.44	4.36
母方言	3.71	4.45	3.83	4.01	3.82	4.35	4.2	3.82	4.34

図３　北京インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価

② 天津インフォーマントの評価

図４は天津インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価をグラフにしたものである．

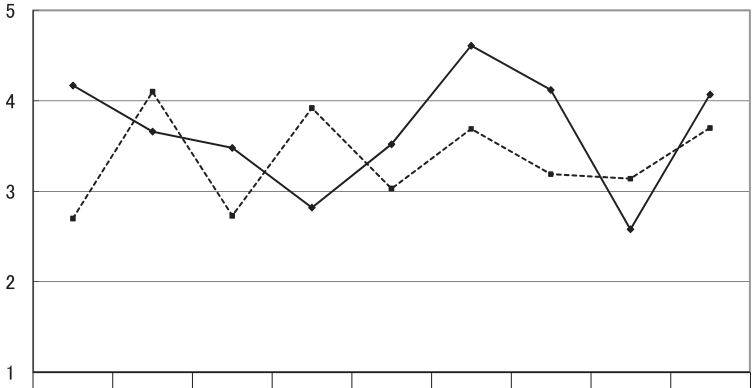
天津インフォーマントの標準中国語に対する評価は，「実用的である」において最も高くなり，「かっこいい」において最も低くなっている．これは，北京インフォーマントの評価でもそうであったように，標準中国語が持つ高い規範性が評価され，標準中国語がその規範性に裏打ちされた実用的威信を備えた共通語であることを示している．また，強い規範性を誇る反面で，流行的威信は低下し，「かっこいい」において著しく低い評価を下されている．さらに，本節のインフォーマントの出身地である天津は北方に位置する．そのため，同じく北方にあり，地理的距離も非常に近い北京語を代表的下位方言に持つ北方方言を基礎とする標準中国語に対するイメージも向上し，「好きである」「親近感を覚える」といった心理的要素に強い影響を受ける評価項目において高い評価を得ている．また，標準中国語に対する心理的距離と天津語に対するそれを比較すると，標準中国語をより近くに感じているというデータも出ている（心理的距離については宮本（2008b）第九章参照）．さらに，「細やかである」と意味的に近似する「柔らかである」における評価も高くなっている．その反面，「柔らかである」及び「細やかである」の反義語となる「豪快である」においては，2.82pt と低い評価を下されている．

天津語に対する評価は，「親近感を覚える」において最も高くなり，「上品である」において最も低くなっている．天津語は天津インフォーマントの母方言であるため，「親近感を覚える」における評価が高くなるのは，やはり当然のことであり，天津インフォーマントの心理の現れであるといえる．また，「豪快である」においては 1.1pt，「かっこいい」においては 0.56pt と標準中国語の数値を大幅に上回っている．この点が「上品である」における天津語に対する評価の低下に繋がったと考えられる．

このように，天津語が高い評価を得ているのは，天津語が天津インフォーマントの母方言であるた

めだろう．Ⅲ（1）で述べたように家庭内では64.4%が母方言である天津語を使用すると回答している．そのため，「親近感を覚える」では標準中国語よりも高い数値を示している．

標準中国語と天津語に対するイメージを比較すると，上位イメージで共通するのは，「実用的である」「好きである」という2項目であり，下位イメージで共通するのは，「細やかである」「柔らかである」「かっこいい」という3項目である．しかし，「親近感を覚える」「豪快である」という2項目について，天津語で上位イメージとなっているのに対し，標準中国語では下位イメージとなっている．また，「上品である」「美しい」という2項目については，標準中国語で上位イメージとなっているのに対し，天津語では下位イメージとなっており，これら4項目については，両者間の評価が異なっている．



	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
標準中国語	4.17	3.66	3.48	2.82	3.52	4.61	4.12	2.58	4.07
母方言	2.7	4.1	2.73	3.92	3.03	3.69	3.19	3.14	3.7

図4　天津インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価

③ 上海インフォーマントの評価

図5は上海インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価をグラフにしたものである．

上海インフォーマントの標準中国語に対する評価は，「実用的である」において最も高く，「かっこいい」において最も低い．標準中国語は中国において共通語としての役割を担っているため，その実用性が非常に高く評価されている．そして，標準中国語が持つその規範性が評価され，上品であり，美しく，細やかな言語であるという位置づけがなされている．また，北京，天津と同様に，「かっこいい」における評価が著しく低下している．

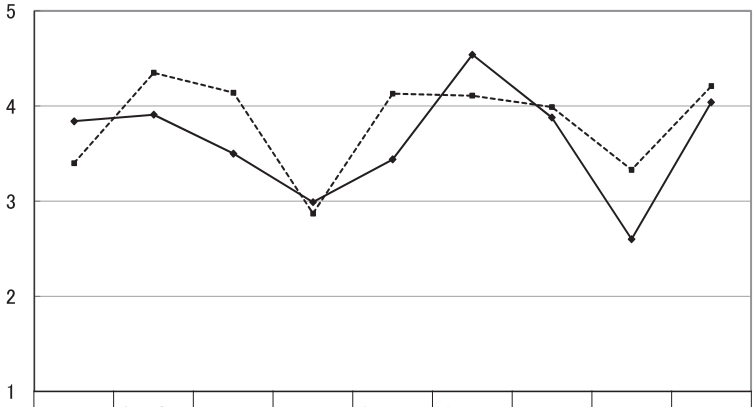
現在，中国では標準中国語の普及が急速に進められており，多くの標準中国語普及政策が施行されている．こういった言語政策が上海インフォーマントの標準中国語に対する評価を形成する上で大きな役割を果たしていると言えるだろう．その一例として，近年の上海では，標準中国語普及を促す標語を目にすることが多く，上海市の行政が施行している標準中国語普及政策が標準中国語の威信向上にも貢献しているものと推測できる．

標準中国語普及が急速に展開する中，上海市人民代表大会に出席した代表の一人は，上海語が消滅することを危惧し，それを保護すべきだという主旨の発言をしている．だが，上海インフォーマントは母方言である上海語を全体的に高く評価している．この高い評価は，中国沿海地域を代表する大都市であり，高い経済的地位を有する上海に対する上海インフォーマントの強いアイデンティティの現

れであるともいえるのではないだろうか.

上海語に対する評価は,「親近感を覚える」において最も高く,「豪快である」において最も低くなっている. 上海インフォーマントにとって上海語は母方言であるため,「親近感を覚える」において高い評価を得ているのは当然のことであり, 上海インフォーマントの心理が言語評価に表出したものだと言える. また, 上海語は呉語に属する方言であるため,「柔らか」であり,「細やか」であるというステレオタイプを持っている. このことから,「柔らかである」及び「細やかである」とは対立する概念である「豪快である」における評価が著しく低下したものと考えられる.

標準中国語と上海語に対するイメージを比較すると, 上位イメージで共通するのは,「好きである」「親近感を覚える」という2項目であり, 下位イメージで共通するのは,「上品である」「豪快である」「かっこいい」という3項目である. しかし,「柔らかである」「細やかである」という2項目について, 上海語で上位イメージとなっているのに対し, 標準中国語では下位イメージとなっている. また,「実用的である」「美しい」という2項目については, 標準中国語で上位イメージとなっているのに対し, 上海語では下位イメージとなっており, これら4項目については, 両者間の評価が異なっている.



	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
標準中国語	3.84	3.91	3.5	2.99	3.44	4.54	3.88	2.6	4.04
母方言	3.4	4.35	4.14	2.87	4.13	4.11	3.99	3.33	4.21

図5　上海インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価

④ 杭州インフォーマントの評価

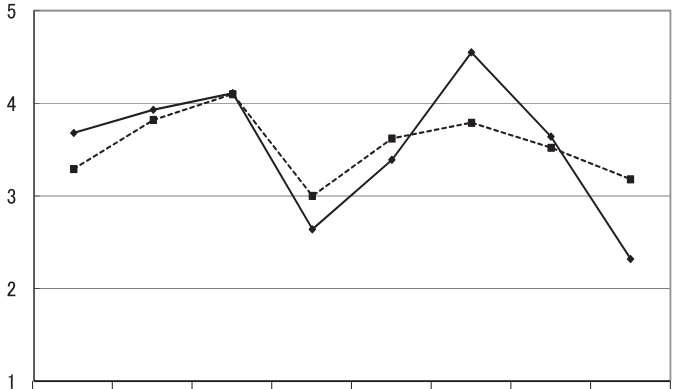
図6は杭州インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価をグラフにしたものである.

標準中国語は, 中国において共通語としての役割を担っているため, その実用性が非常に高く評価されている. そして, 標準中国語が持つその規範性が評価され, 上品であり, 美しく, 細やかな言語であるという位置づけがなされている.

当然のことではあるが, 杭州人は自らの母方言である杭州語に対して高い評価を下している. しかし, 母方言に対する評価であるからといって, 理由なくこれを高く評価しているわけではなく, 全体的な評価の傾向としては, 杭州人以外のインフォーマントによる杭州語に対する評価とも一致しているといえる. このことから, 杭州人は母方言に対する評価を認識していることが, 評価項目「豪快である」における評価の低さに現れていると考えられる.

標準中国語と杭州語に対するイメージを比較すると, 上位イメージで共通するのは,「柔らかであ

る」「親近感を覚える」「実用的である」という３項目であり，下位イメージで共通するのは，「美しい」「豪快である」「かっこいい」という３項目である．しかし，「上品である」という項目について，標準中国語で上位イメージとなっているのに対し，杭州語では下位イメージとなっている．また，「細やかである」という項目については，杭州語で上位イメージとなっているのに対し，標準中国語では下位イメージとなっており，これら２項目については，両者間の評価が異なっている．



	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい
標準中国語	3.68	3.93	4.11	2.64	3.39	4.55	3.64	2.32
母方言	3.29	3.82	4.1	3	3.62	3.79	3.52	3.18

図６　杭州インフォーマントの標準中国語及び母方言に対する評価

(3)　場面別言語使用意識と言語評価

本節では，言語評価を示す９個の評価項目への回答のそれぞれと，各場面での方言と標準中国語の使用状況との関連を見ていきたい．表２～５は，言語評価への回答と各場面で使用するとした言語の種類を下記のように数値化して算出した相関係数の値を，場面１～７について示したものである．

言語評価：SD 法による五段階尺度
場面と言語：「母方言を使う」５点，「標準中国語と母方言の両方を使う」３点，「標準中国語を使う」１点

相関係数は，各評価項目について「強くそう思う」と答えている人に「標準中国語を使う」人が多ければマイナスになり，逆に「母方言を使う」人が多ければプラスになる．したがって，この数値により，どの評価項目について「強くそう思う」と答えている人が標準中国語や母方言を使っているのか，その傾向を把握することができる．

表２に示すように，設定した評価項目のうち，北京インフォーマントの標準中国語使用に最も関わりの深いのは，「標準中国語が好きだと思う」という項目である．これに対して，北京インフォーマントの北京語使用に最も関わりの深いのは，「北京語がかっこいいと思う」という項目である．次いで関連のありそうな項目は，「北京語が好きだと思う」である．

次に，表３に示すように，設定した評価項目のうち，天津インフォーマントの標準中国語使用に最も関わりの深いのは，「標準中国語が上品だと思う」という項目である．次いで関連のありそうな項目は，「標準中国語が好きだと思う」である．これに対して，天津インフォーマントの天津語使用に

表２　場面と方言イメージの相関１（北京）

場面	標準中国語についての評価								
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
場面１	−.066	−.026	.058	−.066	.063	−.043	−.010	−.048	−.169*
場面２	−.117	−.114	.006	−.034	.032	−.105	−.094	−.055	−.217**
場面３	−.128	−.090	.035	−.055	.051	−.127	−.078	−.078	−.238**
場面４	−.139	−.086	.023	−.094	.037	−.159*	−.119	−.109	−.256**
場面５	−.124	−.099	.021	−.082	.035	−.131	−.113	−.099	−.269**
場面６	−.117	−.056	.028	−.052	.071	−.151	−.106	−.050	−.228**
場面７	−.120	−.080	.028	−.049	.071	−.141	−.112	−.052	−.259**
場面	北京語についての評価								
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
場面１	.016	.113	.106	.087	.117	.205**	.136	.185*	.178*
場面２	.057	.017	.049	.014	.126	.133	.091	.160*	.107
場面３	.034	.074	.060	.083	.107	.129	.152*	.175*	.164*
場面４	−.003	.058	.056	.065	.110	.147	.109	.167*	.151
場面５	.005	.081	.074	.076	.102	.157*	.124	.192*	.176*
場面６	.067	.075	.059	.060	.126	.140	.109	.171*	.146
場面７	.052	.091	.078	.079	.139	.129	.138	.205**	.165*

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表３　場面と方言イメージの相関２（天津）

場面	標準中国語								
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
場面１	−.179	−.116	.039	−.104	.116	.168	−.033	−.017	−.164
場面２	−.218*	−.177	−.022	−.035	−.048	−.252*	−.153	−.061	−.295*
場面３	−.264*	−.225*	−.201	.083	−.075	−.154	−.244*	−.130	−.304**
場面４	−.080	−.113	.004	−.072	−.133	−.069	−.125	.011	−.177
場面５	−.285*	−.218*	−.237*	−.076	−.071	−.074	−.281*	−.045	−.263*
場面６	−	−	−	−	−	−	−	−	−
場面７	−.227*	−.014	−.126	.228*	−.033	−.004	−.156	.105	−.071
場面	天　津　語								
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
場面１	.232*	.266*	.105	.281**	.348**	.328**	.425***	.418**	.526***
場面２	−.062	−.017	−.022	.007	−.016	.014	.234*	.293**	.086
場面３	−.100	.101	−.031	.183	−.012	.051	.260*	.289**	.124
場面４	.200	.204	.180	.181	.160	.211*	.500***	.447***	.275**
場面５	.031	.183	−.043	.172	.036	.115	.353**	.348**	.257*
場面６	−	−	−	−	−	−	−	−	−
場面７	.028	−.022	.016	.017	−.007	−.159	.042	.051	−.060

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表４　場面と方言イメージの相関３（上海）

場面	標準中国語								
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
場面１	−.005	−.181*	−.173*	.079	−.018	−.007	−.048	.075	.003
場面２	−.106	−.030	.086	.026	.006	−.114	−.107	.053	−.040
場面３	−.174*	−.175*	−.080	.022	−.093	−.247**	−.253**	−.016	−.172*
場面４	−.085	−.078	.009	.116	.003	−.080	−.175*	−.024	−.018
場面５	−.023	−.193*	−.132	.159	−.059	−.170*	−.097	.076	−.058
場面６	−.096	−.093	−.048	.001	.001	−.067	−.096	−.059	−.113
場面７	−.070	−.173*	−.009	.058	.058	−.063	−.144	−.050	−.090
場面	上　海　語								
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい	好きである
場面１	.071	.096	.043	−.052	.206*	.106	.019	.126	.047
場面２	.098	−.057	.010	.053	.044	−.036	.047	.173*	−.009
場面３	−.003	.065	−.036	.092	.023	.035	.115	.191*	.171*
場面４	.098	.208*	.054	.117	.085	.180*	.140	.151	.293***
場面５	.168*	.278**	.105	.107	.172*	.201*	.232**	.235**	.360***
場面６	.060	−.028	−.011	.100	−.010	−.004	.006	.058	−.016
場面７	.027	.125	.007	.026	−.088	.096	−.008	.025	.096

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表５　場面と方言イメージの相関４（杭州）

場面	標準中国語							
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい
場面１	.048	−.075	−.137	.054	−.016	.003	−.042	.052
場面２	−.107	−.060	−.019	.007	−.031	−.145	−.109	.035
場面３	−.093	−.119	−.104	.084	−.044	−.173*	−.149	.045
場面４	.027	.020	.005	.131	.030	.009	−.046	.075
場面５	−.030	−.165*	−.189*	.138	−.067	−.147	−.106	.147
場面６	−.076	−.077	−.047	.008	−.034	−.053	−.075	−.044
場面７	−.042	−.139	−.030	.070	−.041	−.043	−.099	−.023
場面	杭　州　語							
	上品である	親近感を覚える	柔らかである	豪快である	細やかである	実用的である	美しい	かっこいい
場面１	.139	.119	.031	−.026	.209**	.172*	.090	.173*
場面２	.055	−.040	−.047	.048	.026	−.030	.073	.145
場面３	.035	.117	−.007	.080	.092	.076	.159*	.197*
場面４	.122	.229**	.078	.105	.166*	.203**	.212**	.177*
場面５	.151*	.284**	.160*	.102	.183*	.178*	.224**	.215**
場面６	.054	−.016	−.007	.082	.000	.002	.012	.053
場面７	.034	.128	.013	.018	−.039	.097	.018	.035

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

最も関わりが深いのは,「天津語がかっこいいと思う」という項目である．次いで関連のありそうな項目は,「天津語が美しいと思う」,「天津語が好きだと思う」である．

また，表４に示すように，設定した評価項目のうち，上海インフォーマントの標準中国語使用に最も関わりの深いのは,「標準中国語に親近感を覚える」という項目である．次いで関連のありそうな項目は,「標準中国語が実用的だと思う」,「標準中国語が美しいと思う」である．これに対して，上海インフォーマントの上海語使用に最も関わりの深いのは,「上海語が好きだと思う」という項目である．次いで関連のありそうな項目は,「上海語がかっこいいと思う」である．

そして，表５に示すように，設定した評価項目のうち，杭州インフォーマントの標準中国語使用に関わりの深いのは,「標準中国語が実用的だと思う」,「標準中国語に親近感を覚える」,「標準中国語が柔らかだと思う」という項目である．これに対して，杭州インフォーマントの杭州語使用に最も関わりの深いのは,「杭州語がかっこいいと思う」という項目である．次いで関連のありそうな項目は,「杭州語が細やかだと思う」,「杭州語が実用的だと思う」,「杭州語が美しいと思う」である．

したがって，表２～５から全体的な傾向を見ると，標準中国語使用に関わりの深いのは,「標準中国語が上品だと思う」,「標準中国語が実用的だと思う」,「標準中国語が好きだと思う」という項目である．これに対して，母方言使用に関わりの深いのは,「母方言がかっこいいと思う」,「母方言が好きだと思う」,「母方言が美しい」という項目である．

この結果については，その原因を更に検証していく必要があるだろう．

おわりに

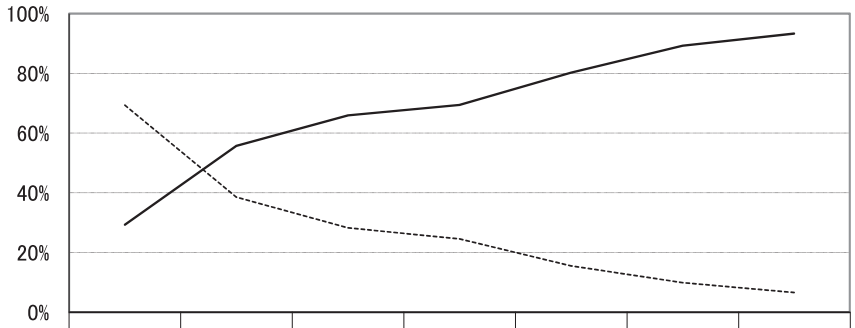
これまでの分析から，本調査で得られたデータからはいくつかの傾向を読み取ることができる．

(1) 各調査地点におけるインフォーマントの言語使用状況を平均すると図７のようになる．場面のフォーマル性が高まり，場面でインフォーマントが感じるだろう心理的な緊張感が高まる程，標準中国語の使用が増加する傾向にある．

各場面における標準中国語と母方言の使用比率を合わせて比較すると，場面のフォーマル性が高ければ高いほど，標準中国語の使用率は上昇，母方言の使用率は低下し，逆に，場面のフォーマル性が低ければ，それに応じて，標準中国語の使用率は低下，母方言の使用率は上昇していることが分かる．これと北京・天津・上海・杭州インフォーマントの場面別コード切換状況とを比較すると，上海インフォーマントのものは本調査において対象とした４地点の中では比較的特異なものだということができるだろう．

次に，各地点における標準中国語の使用率とその場面のフォーマル性との関係度合を図示すると図８のようになる．

天津・上海・杭州インフォーマントの標準中国語使用率は，インフォーマルな場面において多少の差を示しているものの，フォーマル性の最も高い場面においては，均しく完全に或いは極めて高い確率で標準中国語に切り替えるという結果が出ている．しかし，上海インフォーマントのコード切換は，他の地点におけるコード切換状況と比較すると，母方言から標準中国語への切換がかなり遅れている．



	場面1 家で	場面5 友達とお喋り	場面4 校外で同級生に対して	場面2 ショッピング	場面3 学校で同級生に対して	場面7 放課後先生に対して	場面6 授業中先生に対して
標準中国語	29.3%	55.7%	65.9%	69.4%	80.2%	89.2%	93.3%
母方言	69.3%	38.5%	28.2%	24.5%	15.5%	9.9%	6.6%

図7　中国人の場面別コード切換状況

これに対して，北京インフォーマントの標準中国語使用率は，インフォーマルな場面からフォーマルな場面へと場面が移行しているにも関わらず，その標準中国語使用率は横ばいで，ほとんど差は見られない．

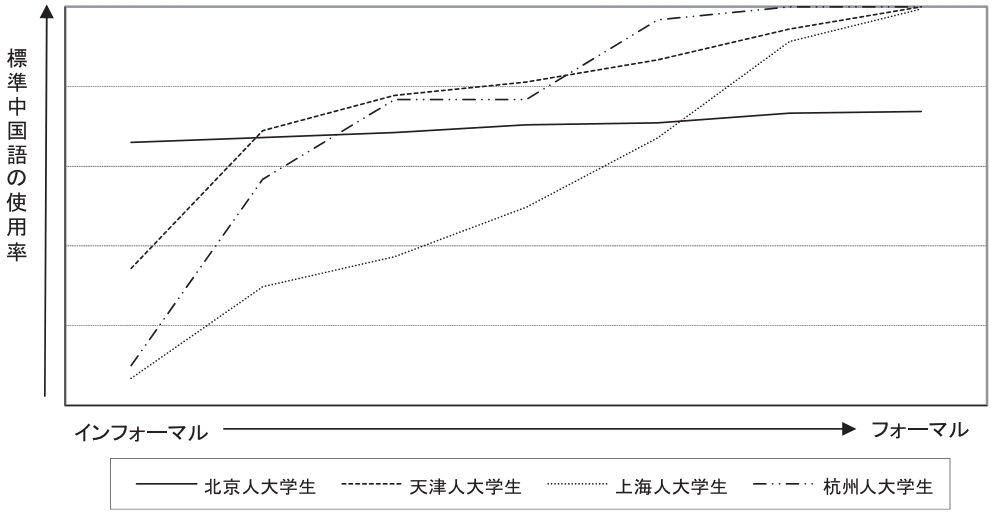


図8　標準中国語の使用モデル

(2) 全調査地点での標準中国語に対する評価を見ると，「実用的である」が最も高くなり，「かっこいい」が最も低くなるという傾向が見られる．また，母方言に対する評価では，当然のことではあるが，「親近感を覚える」が最も高いか或いはその次となることである．

また，北京市及び天津市のインフォーマントの母方言に対する評価には，「上品である」が最も低くなるという共通点が見られる．これは，北方方言が共通して持つ評価項目「上品である」が低く評価される傾向にあることと一致している．

そして，上海市及び杭州市のインフォーマントの母方言に対する評価には，「豪快である」が最も低くなるという共通点が見られる．これは，呉語が共通して持つ評価項目「豪快である」が低く評価される傾向にあることと一致している．

(3) 標準中国語使用と相関を持つのは，「標準中国語が上品だと思う」，「標準中国語が実用的だと思う」，「標準中国語が好きだと思う」という項目である．これに対して，母方言使用と相関を持つの

は,「母方言がかっこいいと思う」,「母方言が好きだと思う」,「母方言が美しいと思う」という項目である.

注

（1） 1956 年 2 月に国務院が公布した『関於推広普通話的指示』において，正式に以下のように規定された.「①北京語音を標準音とする，②北方方言を基礎方言とする，③典型的な現代白話著作を文法規範とする.」（羅竹風 1990：5-777）

（2） 陳松岑 1990：6

（3） 呉語：主に浙江省，江蘇省南部及び上海市において用いられる．この他，江西省皖晥南及び福建省浦城北部にも呉方言の一部が見られる．呉方言の使用人口は約 7500 万人に達する.（蔡・郭 2001：285-286）；贛語：主に江西省の贛江中，下流，撫江流域及び鄱陽湖地域において用いられる．使用人口は約 3500 万人に達する.（蔡・郭 2001：82）；湘語：主に湖南省において用いられ，江西省全州，資源等の一部の県市にも分布する．湘方言の使用人口は約 3200 万人に達する.（蔡・郭 2001：296）；閩語：主に福建，台湾，海南の 3 省及び広東省潮汕地域の 12 県市において用いられる．使用人口はおよそ 4000 万人に達する．閩方言はその下位方言として，閩北語と閩南語を有するが，この二つは相互にコミュニケーションをとることはできない.（蔡・郭 2001：195）；粤語：主に広東省珠江デルタ，広東省西部，広西チワン族自治区東南部において用いられる．使用人口は約 4500 万人に達する.（蔡・郭 2001：195）；徽語：主に安徽省南部新安江流域の旧徽州府において用いられる．この他，安徽省，浙江省北部，江西省の 16 の県市に分布する．使用人口は約 350 万人に達する.（蔡・郭 2001：137）；杭州語：臨安府時代に杭州語は多分に官話の影響を受けたため，半官話として一般的な呉方言とは区別され，ある種の方言島を形成している．例えば，杭州語は語尾の「儿」が非常に発達しており，人称代名詞には,「儂（あなた）」,「伊（彼）」といった伝統的な呉語タイプが用いられず，全て北方方言の「我（私）」,「你（あなた）」,「他（彼）」を用いている．これはみな杭州語が北方官話の方向へ近づきつつあることの明証である（詹 1983：143）.

（4） ただし，杭州市で実施した言語評価調査では,「(i) 好きである」は評価項目に含まれていなかった.

引用文献

蔡富有・郭龍生
2001『語言文字学常用辞典』北京：北京教育出版社
陳松岑
1990「紹興市城区標準中国語的社会分布及其発展趨勢」『語文建設』(1)：41-47.
陳松岑
1999「新加坡華人的語言態度及其対語言能力和語言使用的影響」『語言教育与研究』(1)：81-95.
高一虹・蘇新春・周雷
1998「回帰前香港，北京，広州大学生的語言態度」『外語教学与研究』(2)：434-448.
伊藤隆
1993「方言と標準語 ── 場面による使い分けとことばのイメージ ── 」愛知淑徳大学『コミュニケーションと人間』(2)：1-12.
羅竹風主編
1990『漢語大詞典・第 5 巻』上海：上海辞書出版社.
宮本大輔
2007「中国における言語評価 ── 浙江省の大学生を例として ── 」神奈川大学 21 世紀 COE 年報『人類文化研究のための非文字資料の体系化』(4)：193-202.
宮本大輔

2008a「北京における言語評価」神奈川大学 21 世紀 COE『若手研究者研究成果論文集』: 137-151.
宮本大輔
2008b「中国人大学生の言語意識及び言語評価 ── 北京・天津・上海・浙江の調査に基づいて」博士論文.
宮本大輔
2009a「天津人大学生の言語評価」『人文研究』167：135-167.
宮本大輔
2009b「上海人大学生の言語評価」『人文研究所報』42：33-50.
宮本大輔
2009c「中国人の言語評価 ── 北京・天津・上海・杭州の大学生を対象に ──」『社会言語科学』11（2）：55-68.
倪伝斌・王志剛・王際平・姜孟
2004「外国留学生的漢語語言態度調査」『語言教学与研究』(4)：56-66
真田信治
2000『社会言語学の展望』東京：くろしお出版
汪平
2003「標準中国語和蘇州話在蘇州的消長研究」『語言教育与研究』(1)：29-36
詹伯慧
1983『現代漢語方言』（樋口靖訳）東京：光生館